

TAKE FREE

安曇野市の子どもたちがつくる
ローカルマガジン



2022
MARCH
創刊号
Vol.1



安曇野の
水

安曇野の子どもたちが、安曇野の水にまつわる人々取材しました。



子どもローカルマガジン
COLOMAGA project
コロマガプロジェクト 安曇野市



安曇野市の子どもたちがつくる
ローカルマガジン



AZUMO [アズモ] Vol.01

2022年3月 第一刷発行
発行人 COLOMAGA Project 安曇野制作実行委員会
後援 安曇野市教育委員会



タイトル題字 / あやめ・すずな・りんりん・めい・ゆうさん・まゆ・しーちゃん・りっくん
 表紙イラスト / あやめ・りんりん
 表紙カメラマン / しーちゃん
 目次イラスト / あやめ・まゆ

表紙のロゴタイトルは、AZUMOの線画デザインを用いて中学生全員に安曇野をイメージしたイラストを描いてもらい、ロゴのパーツごとに全員のイラストを活用してデザイン制作したものです。



- 04 創刊号のテーマ
『安曇野の水』
- 05 中学生クリエイター紹介 / 冊子作りの流れ
- 06 安曇野『水』MAP
- 08 温泉チーム
ミョウバンと温泉の意外なつながり
- 10 拾ヶ堰チーム
拾ヶ堰サイクリング
- 11 養殖魚チーム
丸山鯉屋
- 12 わさびチーム
ハイパー農民を解剖する!
- 14 水辺の生き物チーム
一緒に生きる水と生き物
- 15 地下水チーム
地下水(ブルーゴールド)を守るために
- 16 編集後記 中学生クリエイターが体験した制作の裏話
- 18 コロマガプロジェクト安曇野
制作実行委員会 / サポートパートナー
- 19 コロマガプロジェクトの活動について



はじめまして!
アズモといひます。

本冊子「AZUMO(アズモ)」は長野県安曇野市の有志で集まった中学生のこどもたちが、プロのクリエイターと一緒に制作した地域情報誌です。自分たちで地元のことを調べたり取材をしたりして得た情報を元に、こどもがイラスト・写真・原稿を制作し、プロのクリエイターで編集・デザインをしました。この冊子を読んで、安曇野の良さが少しでも伝わったら嬉しいです。

こどもローカルマガジン
COLOMAGA
コロマガプロジェクト project

私たちはコロマガプロジェクトを通して、このような社会を実現していきたいと思っています。本プロジェクトについて詳しくはp19をご覧ください。

ふるさとの良いところを知って自慢できるこどもたちが
増えること

ひとりでも多く自己肯定感が高いこどもたちが
増えること

こどもたちの創造性・独創性を育み活かす機会が増えること

ふるさとに住みたい、ふるさとで働きたいと思うこどもたちが
増えること

「デザインの力」を理解できるこどもたちが
増えること

地域コミュニティに関心を持つ大人とこどもたちが
増えること

大人とこどもが一緒に何かを創り出す関係が増えること

中学生クリエイター

安曇野市内に住む有志の中学生8名で本冊子制作に挑戦!(なんと市内7校のうち5校から参加!)
冊子作りに必要な絵を描くイラストレーター、写真を撮るカメラマン、文章を書くライターに分かれて、
取材で見て聞いて感じたことを記事にしました!

冊子タイトル 「AZUMO」の名付け親

安曇野を「もっと」知ってほしい。
「もっと」好きになってほしい。
という気持ちを込めて名付けました。



イラスト担当

三郷中2年 あやめ

部活動は美術部。好きなものはアニメや漫画。YouTubeのゲーム実況動画をよく見る。最近はクトゥルフ神話にハマっている。



イラスト担当

穂高西中1年 すずな

部活動は、美術部。趣味は、ダンス、ゲーム、読書です。好きなYouTuberは、48フォーエイトさんです。



イラスト担当

穂高西中1年 りんりん

美術部所属。好きなポカロPIは、煮ル果実。好きなイラストレーターは明石、WOOMA。将来はイラストレーターになりたいと思っている。



イラスト・写真担当

穂高東中1年 めい

性格はビビリメスローのハリネズミタイプ。鳥が好きで、特にカワセミが好き。安曇野に生息してるのでいつか絶対に見たい。



文章・写真担当

豊科南中2年 ゆうさん

ゆうさんです。趣味はゲームとYouTube。好きなものはカービィとデデデ大王とメタナイトとパンダナワドルディとスージーです。



文章・写真担当

穂高西中1年 まゆ

卓球部所属。BTSが好きで、よく踊ったりしています!最近では、洋楽を聴くのにハマっています!将来の夢はmovie editor!!



文章・写真担当

穂高東中1年 しーちゃん

趣味は塗り絵と音楽を聴くこと。好きな作家は中山七里。ミステリー系の本が好きです。将来の夢はバレリーナになることです。



文章担当

堀金中1年 りっくん

帰宅部所属。趣味は読書とゲーム。年中ライトノベルとハリポタを読みふけている。好きな作家は川原礫。

創刊号テーマ

安曇野の水



安曇野って どんなところなの?

長野県のほぼ中心に位置する安曇野市は、2005年に豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の5町村が合併して誕生し、現在9万6千人の人々が住んでいます。3,000m級の北アルプスをのぞみ、のどかな田園風景が広がります。また、日照時間の長さ、晴天率の高さ、昼と夜の寒暖差の大きさ...といったおいしい農産物が育つ条件に当てはまる、絶好の地形と気候に恵まれており、米や野菜、果物の生産も盛んです。

なぜ安曇野の水が テーマなの?

私たちの暮らす安曇野市は、「名水百選」にも選ばれるほど、豊富で良質な水が湧き出る地です。湧き水は、人々の暮らしを潤す水道水に使われているほか、わさび栽培をはじめとする農業、食品や精密機器の製造など、あらゆる産業に欠かすことができない存在です。そこで創刊号である今回は、私たちの生活に深くかわりのある水をテーマに選び、安曇野の水にまつわる人々に取材しました。

私たちがこうやって作りました!

冊子づくりの流れ

1 テーマを学ぶ



まずは、創刊号のテーマ「安曇野の水」を詳しく知る方を講師に招き、全員でお話を聞きます。その上で、テーマに合わせてどこに取材するべきか全員で意見を出し合います。

2 取材先を調べる



次に、取材先ごとのチームに分かれて、どんな人が、どんな場所で、どんなことをしているのかを調べて、どんな記事にするかを全員で想像力を膨らませていきます。

3 取材先に足を運ぶ



いざ取材当日!自分は中学生クリエイターとして取材に来ているという責任感が感じられる瞬間です。見て、聞いて、匂って、食べて、触ってみて...全身でインプットを行います。

4 素材と構成ラフ作り



取材を終えたら、素材作りに取りかかります。仕上がった写真・イラスト・文章をそれぞれの担当が持ち寄って、どんな記事にまとめるか構成について話し合いを重ねていきます。

常念岳 2857m

横通岳 2767m

大天井岳 2922m

有明山 2268m



安曇野水MAP

987億円の価値

3 養殖魚チーム

養殖魚チームは、丸山鯉屋の丸山隆彦さんに取材をしました。天然と養殖の違いやポンプの仕組み、丸山鯉屋の歴史など、様々なお話を伺いました。イワナの塩焼きや信州サーモンの刺身などを実際に食べてきたので、その体験記と共にニジマスを知ってってください。

詳しくはp11へ

4 わさびチーム

わさびチームは、わさび作家YouTuber兼デザイナーの黒岩潤一朗さんにお話を伺いました。わさびの名産地安曇野でのわさび栽培のことから、こだわりを持って投稿しているYouTubeのこと、思わず知りたくなる黒岩さんご自身のことや経歴などを教えていただきました。今回は安曇野のわさび栽培、そしてハイパー農民の黒岩さんについてご紹介します。

詳しくはp12へ

5 水辺の生き物チーム

水辺の生き物チームは安曇野市教育委員会 教育部文化課の斉藤雄太さんに取材をしました。水に入って水中で生物を網で捕まえて観察したり、水量や水質の変化により生き物にどんな影響がでるのか、生き物が減るとどうなるのかお話を伺いました。この記事を読んで、自分にできることは何があるのかぜひ考えてみてください。

詳しくはp14へ

6 地下水チーム

地下水チームは、安曇野市役所環境課の方々に地下水について出前講座を行っていただき、その後信州大学工学部特任教授の中屋真司先生にも取材をしました。安曇野の地下水のこと、その重要性についてのお話などたくさんのお話を聞きました。地下水についてより深く知ってもらえたらうれしいです。

詳しくはp15へ

僕たちは冊子作りにあたって安曇野の水にまつわる6ヶ所取材しました。安曇野は地下水が豊富で、生活水全般のほか、ミネラルウォーターの製造や観光資源、わさび栽培、養殖などに使用されています。そんな地下水の生み出す価値はなんと約987億円。僕たちが取材を通して知った様々な「安曇野の水」について、ぜひ皆さんと共有したいです。



1 温泉チーム

温泉チームは、中房温泉の百瀬社長に温泉とミョウバンとの関わりや、源泉についてなどのお話を伺いました。他にも、登録文化財に選ばれている温泉プールや神社、地獄ガマ、湯元、焼山など中房温泉の敷地内にある色々なところを取材しました。見どころたくさんの中房温泉。記事を読んでぜひ実際に行ってみてください。

詳しくはp08へ

2 じっかせぎ拾ヶ堰チーム

拾ヶ堰チームは、世界かんがい施設遺産「拾ヶ堰」の始点から終点までを自転車で走り、その道での様々な場所を取材しました。自転車を借りたHUB Cycling Azuminoとお話ごはんを食べたほりがね物産センターではお話も伺いました。取材先ごとに紹介をしているので、行ってみたい場所もあるかもしれません。

詳しくはp10へ

サイクリングで巡りたい オススメスポット

道祖神

道祖神は、石の表面に人などが彫られていてどれも形が違います。様々な大きさがあり、地域によっては色が塗られているものや屋根があるものもあります。学校や地区の行事などで定期的に掃除されているものが多く、綺麗なものが多いです。

やまびこ自転車道

じてんしゃひろば

季節によって様々な景色が見られる場所です。自転車道路の近くにあり、花・木・川がとても綺麗でフォトスポットにもなっていて、カメラ台も設置してあります。春にはお花見も楽しめます。どの季節も、天気がよければ素敵な山の写真をおさめることができます。

拾ヶ堰チームが作った 水MAP情報

- 取材時に走ったルート (赤線は拾ヶ堰)
- 見つけた! 特集スポット 詳しくはp10の記事へ
- 取材先とおすすめスポット



▲湯原の湯

お風呂が14個、浴槽が28個ある。貸切風呂や温泉風呂、一人風呂など様々な浴槽がある。

▶1人de足湯

中房温泉ロッジ前に1人足湯がある。水とお湯があり、自分好みの温度で1人足湯を楽しむことができる。



▲記念スタンプ

フロントのソファ横に全7種類のスタンプがある。1つ1つ柄が違い安曇野関連のスタンプが多い。



▲温泉大プール

昭和8年完成で国登録文化財指定されている「温泉大プール」。楽しむだけでなく、リハビリしている人が歩くためのプールでもある。

と温泉の意外なつながり

ライター/まゆ イラスト/すずな・りんりん カメラ/めい・ゆうさん

私たちは、JR大糸線穂高駅から車で約1時間、穂高有明の山奥にある中房温泉の社長・百瀬さんに取材をしました。中房温泉の歴史や特徴を見聞きしたり、その場所ならではの楽しみ方まで様々な体験をしたのでそれをお伝えします。



◀中房温泉山の神の社

国の登録文化財になっている神社。神社の下の岩に何かしらの記号が書かれているが、いまだにそれが何かは分かっていない。



▲源泉

中房温泉の湯元は約24か所あり、源泉がそれぞれ違う。湯元はとても危険で子供1人では行ってもいけない。

◀地獄ガマ

百瀬さんが自身で作ったという「地獄ガマ」。中から煙が沢山でてきていて手をかざしても熱い。生地の中に温泉水を入れた「ぎょうざ」を地獄ガマで蒸して販売する予定もある。



▶冷却方法

中房温泉では、お湯を冷やすために空冷式と水冷式の2つの方法を使っている。空冷式とは外気の風を当てて冷却する方式で、水冷式は水による液冷（液冷とは液体を用いて熱を移動させる方式）で冷却する。源泉は90℃以上あるので、それを冷ますために行う。



▲焼山 / 地熱蒸し体験

中房温泉上にのぼっていくと山の中に焼山がある。その砂を掘って卵や芋、ウイナーなどを埋めると地熱蒸し料理ができる。



百瀬 孝仁 さん

中房温泉7代目社長
「源泉を大切に、それを生かした浴槽作りをしたい。水資源、温泉資源がなければ私たちはここにいる意味がない。だから今ある自然環境を壊さないよう、守ることで来る方に喜んでもらえ、自然を皆が楽しめるような温泉地作りをしています。」



中房温泉

〒399-8301 長野県安曇野市穂高有明 7226



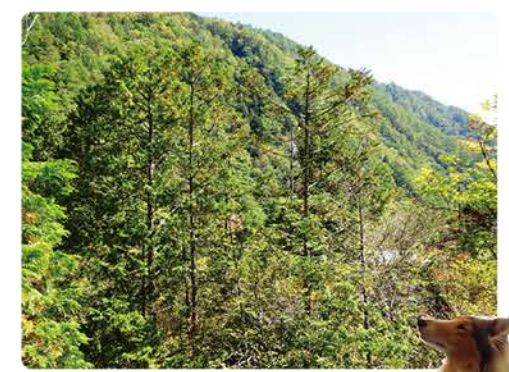
ホームページはコチラ



日帰りでも楽しめる体験・見学プランはコチラ



左：真剣な表情で百瀬さんの話を聞く中学生クリエイターたち / 右上：中房温泉で採取された実際のミョウバン
右中：中房温泉から眺望できる自然豊かな山の景色 / 右下：中房温泉の名物犬レオ



運が良ければボウに会えるかも?!

湯量や成分について

中房温泉は登録されている源泉数が29本あり、源泉によってお湯の成分が異なります。1つ1つの浴槽にどのような効果があるか書いてあり、この効能は医師によって書かれたものなので安心して入ることが出来ます。

湯量については1821年の開湯から現在まで減っていないそうです。理由としては中房温泉のある場所より上の山はすべて広葉樹が生えていて、根が広がっているため地面から水が蒸発しにくいのではないかと考えられています。

中房温泉と歴史とミョウバン

もともと中房温泉は1821年、生糸に艶を出すのに必要な「ミョウバン」の元となる鉱物を採取するためにこの地に入り採掘と湯小屋が始まりました。当時松本藩の貴重な財産である生糸産業に役立ち、財政を豊かにしました。しかし1887年頃中国から安いミョウバンが輸入されるようになり、徐々に生糸産業が衰退してきたのを機に採掘を止め温泉利用のみになり、現在皆さんの知る中房温泉になりました。

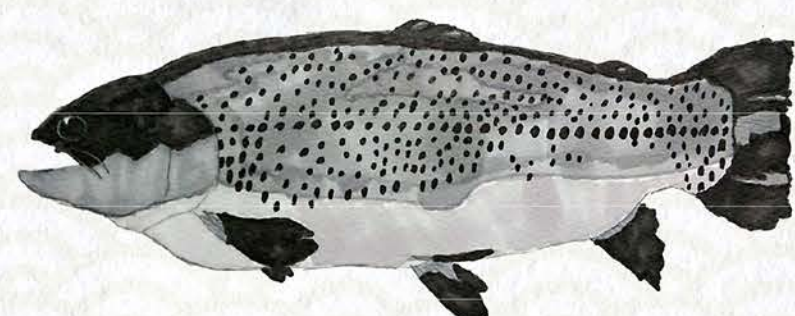


この記事は丸山鯉屋の古い歴史や意外なポンプの仕組み・みんなが気になっている疑問について紹介します。

ライター/ゆうさん イラスト/すずな・りんりん



丸山隆彦さん 昭和31年6月27日生まれ 現在65歳 出身 福島県東白川郡 (株)松本信州水産で働き、 昭和34年(10)20日生まれの丸山佳子さんと結婚。 鯉、虹鱒、信州サーモン、信州大王岩魚を 養殖販売している。



信州サーモン

信州で開発され、オスのプラウトラウト、メスのニジマスから交配されたおいしい魚。



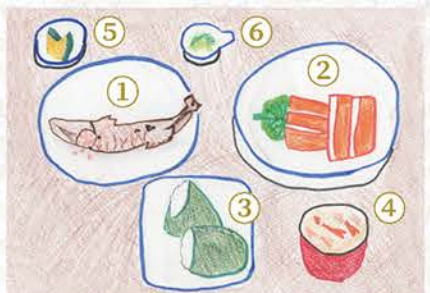
ニジマス

育てやすく、肉質が良い信州サーモンの親。



鯉

氏神の宵祭りの際に、ご馳走として旨煮にして食べる風習があった。



丸山鯉屋さんのおもてなし

①イワナの塩焼き:イワナの卵のやわらかさと適度の塩がおいしい。②信州サーモンの刺身:見た目や歯ごたえもよく、醤油がとてもおいしい。③おにぎり:お米の旨味が引き出されて、おいしい。④味噌汁:味噌の出汁がきいて、おいしい。⑤漬け物:素材本来の味が引き出されたからおいしい。⑥サラダ:野菜のそのものの味が、おいしい。

丸山鯉屋の歴史 丸山忠雄の歴史には、丸山忠雄が大きく関わっていた。先代の丸山忠雄さんが高校3年で丸山家の養子となり、サラリーマンを辞めて、この家の家業の鯉の世話などをやりこなすようになった。そのうちに、丸山忠雄さんは、ある事を知った。それは生き残るためには、体力が必要という事。なぜなら、この家の家業をするには365日休みが無くて、とても苦労したから。温泉街ができ、ホテルなどで自分の魚を使ったメニューを出してくれて、忙しくなったが、その後売れなくなった。新しい魚に、鯉でも、ニジマスでも売れなくなったから、新しい魚に、いっばいのお水をあげ、より良い魚を養殖・販売した。その後、忠雄さんから隆彦さんに引き継がれ、今は、信州サーモンを育てている池があり、その時代に必要なお魚を売って、妻の佳子さんと一緒に頑張っている。

丸山鯉屋

〒399-8302 長野県安曇野市穂高北穂高22184



丸山鯉屋さん Q&A

Q1 何故湧き水を使っているの? わかしは川の水だったけど、田んぼの水は農薬などにより汚染され、稚魚が死んでしまうため湧き水を使い始めた。 Q2 天然と養殖の違いは何? 運動量の差で味が違う。天然は環境に左右されやすい。養殖は味や大きさが整えられる。また、顔は天然だといかつく、養殖はおだやか。 Q3 美味しさの引き出し方は? 良い餌を与えて魚の体力や味が失われてしまう前にエラ近くの動脈を切って血抜きをする。2~3日寝かせるとトロ化しておいしくなる。

ポンプの仕組み

このポンプは地下深くから水を汲み上げるために造られました。特徴は、電動でポンプから丸い管を通ることで。上下2つのある金網を使い、水を汲み上げるときに、酸素以外のガスや気体を気化させ、安全な湧き水を魚たちに届けます。なぜ、酸素以外のガスや気体を気化させなければならぬかというと、水を汲みあげるときに気圧が低い影響で小さな泡が魚の血管の中に入って、膨らんでしまうため、血液が流れなくなり、魚が死ぬ事を防ぐためです。



じ・か・せが 拾ヶ堰 サイクリング



ライター/りっくん イラスト/めい・まゆ・あやめ カメラ/しーちゃん



僕たち拾ヶ堰チームは、世界かんがい施設遺産「拾ヶ堰」の始点から終点までを自転車で走りました。あいにくの雨だったのですが、なんとか全工程を走りきり終点を拝めました。他にも、物産センターを取材したり、安曇野の水にまつわるいろいろな場所に行きました。ここでは、僕たちが実際に取材した場所を紹介します。

HUB Cycling Azumino

HUB Cycling Azuminoは、自転車の貸し出しをしてお店です。貸し出しているのは、マウンテンバイク・ロードバイク・クロスバイクの三種類。全て電動アシスト付きのスポーツバイクです。街中はもちろん、山道も走ることができます。例えば、電動アシストなしの自転車で自転車に乗り慣れている人と、電動アシスト付きの自転車で自転車に乗り慣れていない人が競争するとします。するとなんと、乗り慣れていない人が勝ってしまうほど電動アシストは強力なのです。HUB Cycling Azuminoでは、サイクリングツアーもしています。

HUB Cycling Azumino 〒399-8201 長野県安曇野市豊科南穂高 5089-1まちの駅 安曇野BASE内 070-4456-6290

旬の味ほりがね物産センター

農家の組合員さんが育てた野菜を多く販売しているほりがね物産センター。今回は組合長の小笠原昭彦さんから話を伺いました。ほりがね物産センターでは地産地消に取り組んでおり、毎日新鮮な野菜が並んでいます。店頭に並んだ野菜はその日のうちに売り切ります。たくさんの農家がそれぞれ育てた野菜なので「目揃え会」というミーティングで品質の基準を作りそれを共有することで、①基準に沿った品質の野菜を②価格を統一して販売しています。これらはお客様に安心して買い求めいただくための取り組みだそうで、とても信頼できる素敵なルールですね。ほりがね物産センターでは「季節の野菜・地元で取れた野菜・朝どりの鮮度が高いもの」を条件とし旬の野菜として売り出しています。魅力的な商品が多く並ぶほりがね物産センター、狙い目はやはり旬の野菜でしょうか!?また、併設の食堂ではおにぎり定食や常食天井、安曇野といえばの信州サーモン定食など、地域の野菜を使った美味しいご飯を食べることができます。

旬の味ほりがね物産センター 〒399-8211 長野県安曇野市堀金鳥川 2696 0263-73-7002



旬の味ほりがね物産センター組合長 小笠原昭彦さん

安曇野の水の大切さがわかる、マイナースポットTOP4

拾ヶ堰の始点 シールドマシンフェイス 田中のエノミの木 拾ヶ堰の終点. Includes photos and descriptions of these four spots.



ハイパー農民を解剖する!

わさび農家 YouTuber

ライター/りっくん イラスト/あやめ カメラ/しーちゃん

僕たちは、安曇野でわさび農家をされており、YouTuberとしても活躍中の黒岩さんに取材をしました。わさびのことはもちろん、聞いているだけでわくわくする黒岩さんの軌跡、ハイパー農民たる所以をお伝えします!



わさびの名産地、安曇野

みなさん、安曇野がわさびの産地であることを知っていますか? わさびは、水が常に流れていると枯れてしまし、栽培するのは難しいです。
しかし安曇野は豊富な地下水が流れており、水の温度が一年間一定なのでわさび栽培にはとてもよい環境で、わさびの名産地なのです。そんな安曇野で、わさび農家をしているのが黒岩さんです。黒岩さんのわさび農園は大きな川の近くにあり、広大なわさび畑を有しています。県内外の寿司屋や蕎麦屋などに出荷されています。



黒岩さんのわさび田

黒岩さんのわさび田は、大変なところがあります。例えば、風の強さ。周りが木に囲まれておらず風が強く吹き込んでしまします。日差しも強く、あまり陽に当たりすぎるとわさびは枯れてしまうので、対策として黒いカーテンをつけていました。黒いカーテンをつける作業はとても大変で、他にもわさび栽培に大切な水の流れを作るための作業など、大変なことはたくさんあります。

黒岩さんは、一番の喜びは収穫のときだと仰っていました。わさびは成長に一年もの時間がかかるので、無事に育ってくれると喜びもひとしおなのだとか。また、食べた人が「おいしい」「辛い」と言ってくれると、とても嬉しいそうです。



ハイパー農民の軌跡

黒岩さんは、安曇野市穂高出身です。高校卒業後、オーストラリアに語学留学し、オーストラリアの美術系の専門学校に進みました。

その後、ロイヤルメルボルン工科大学(通称RMIT)に編入し、芸術を学びます。RMITを卒業し、日本に帰ってきたあとは、上田市の会社でデザイナーをしていました。メインの仕事はゲーム制作で、ゲームCMの動画作りにも携わっていました。その仕事を辞めたあと、お父さんがやっていたわさびづくりを手伝い始めました。現在はこれまでの経験を全て生かして、わさび農家兼、デザイナー兼、YouTuberをやっています。「ハイパー農民」を名乗っています。



「WASABI CHANNEL」

黒岩さんは「WASABI CHANNEL」というチャンネルでわさび栽培について投稿しているのですが、「重機」や「電動工具」関連の動画も多いんです。黒岩さんは特に「マキタ」という会社の商品が好きだそうで、黒岩さんのわさび栽培には、マキタの電動運搬車は必需品。他にも、家庭用の電化製品もマキタのものを愛用しています。素晴らしい日本のメーカーや企業について、誇らしい気持ちになるのだとか。

「WASABI CHANNEL」では季節ごとに工程の違うわさび栽培の様子が見られたり、各作業で使用する道具を黒岩さんがレビューしたりしているのを知ることができます。特に音楽にこだわって動画編集をしていると仰っていました。みなさんにもぜひ、黒岩さんのYouTubeチャンネルをチェックしてほしいです。



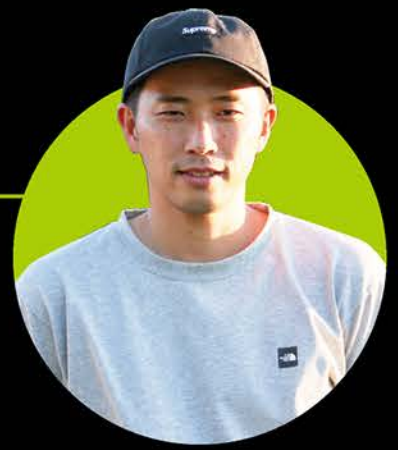
HOW TO わさびのすりおろし方



- 最初にわさびの葉・茎・辛の下の部分を包丁やピーラーできれいにする。
- 葉や茎があった上の部分から、おろし金に優しくあてて、丸く円をかくようにすりおろす。するときは力を入れず、何度も何度も重ねるのがポイント。力を入れてすると、わさびが苦くなってしまいます。
- 辛いのが好きな方は、すった断面に砂糖をつけて食べてみてください。すりたてがわさびの一番おいしい「食べどき」です!

ハイパー農民プロフィール

黒岩 潤一郎 さん
1986年生まれ 長野県安曇野市穂高出身



大町の高校を卒業後、オーストラリアに語学留学し、美術系専門学校を経て、ロイヤルメルボルン工科大学に編入、卒業。帰国後、上田市のIT企業に入社。デザイナーとしてゲーム制作やCMの動画制作に携わる。その後、わさび農家へと転職。YouTubeにて「WASABI CHANNEL」を開設。趣味は動画制作、マキタの製品集め。現在はわさび農家、デザイナー、YouTuberとして幅広く活躍している。肩書きは「ハイパー農民」。

ハイパー農民の1日

午前 農作業

午後 YouTube作業

YouTubeチャンネル「WASABI CHANNEL」

黒岩さんのYouTubeチャンネルの登録者数は、2022年3月時点で6万人です。「WASABI CHANNEL」というチャンネル名で活動しており、目標は銀の盾をもらうこと(チャンネル登録者10万人)。編集時間は1本約8時間で、音楽にこだわって編集をしています。重機や季節ごとのわさび栽培の動画を、わさびをドローンで撮影したり、音楽のこだわりを生かして他チャンネルと差別化する工夫をして投稿しています。

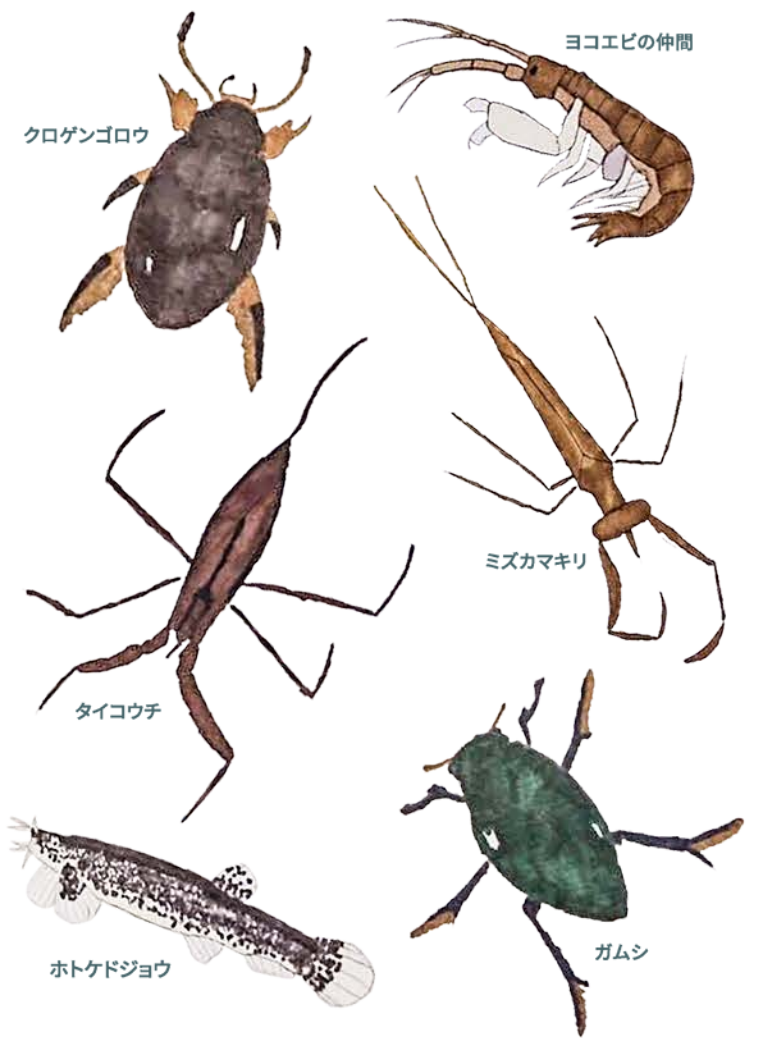
「WASABI CHANNEL」はコチラ



一緒に生きる 水と生き物

ライター ゆうさん イラスト りんりん カメラ めい

安曇野のきれいな水辺でつけた生き物



斉藤雄太さん
安曇野市教育委員会 教育部文化課。幼少期より生き物に興味があり昆虫採集をしていた。大学在学時に昆虫を研究している先生に出会い、自身も研究に励む。現在は安曇野市で自然観察会の講師をしたり大学の先生の手伝い、高山蝶の調査も行っている。自宅にピオトープがあるほど大の生き物好き。

田淵行男記念館
〒399-8201
長野県安曇野市豊科南穂高 5078-2
0263-72-9964



初めまして。ライターのゆうさんです。安曇野にいる水辺の生き物と生息についてとても興味が有ります。昆虫に詳しいと言われていた斉藤さんに質問です。

温暖化によって水の量が年々減っていると聞きました。その影響で、安曇野の水辺の生き物に起きていることを教えてください。



ゆうさんこんにちは。水温が上がったり水質が悪化したりするので、生息する生き物が変化したり、環境の変化に弱い生き物が先に減ってしまいます。なので、生き物の減少を防ぐために何故こうなったかを調査し、水環境全体を守ることが必要です。



生き物が減ると、どのような影響がありますか？



ある生き物が絶滅してしまうと、生物多様性が失われ生活基盤が揺らぐこととなります。また、現状役に立っていないと言われる生き物でも、未知の有用な形質を秘めている可能性もあります。「ジェンガ」のようなもので、最初は影響がなくても抜き続けられればいずれ崩壊する。何が引き金になるかわからないから、少なくとも今より環境が悪化しない努力が必要です。



安曇野市役所で購入したこのレッドデータブックには、生き物の生息の実態の把握や、自然環境のことが書かれていました。これを見て、僕達にできることはありますか？



正しい知識を身につけてほしいですね。闇雲にやっても効果がなかったり、逆効果だったりします。環境省のHPや実績のある専門家などが書いた本を読み、「生物多様性」について勉強してほしいです。また、それを取り巻く世界や国の動向に注目しても良いですね。出典が書かれてある本であれば一次情報を検証できるので、たくさん本を読むことも大切です。観察会等のイベントに参加し、外でいろんな生き物に触れて体感してほしいです。



田淵行男記念館で特別に、斉藤さん立ち会いの元、水辺の生き物を網ですくう体験をさせていただきました！初めて見た生き物もいて楽しかったです。ありがとうございます！

地下水を守るために

ライター/りんりん・しーちゃん・まゆ イラスト/あやめ カメラ/すずな



中屋 眞司 先生

中屋 眞司先生は信州大学工学部の特任教授を務めている方です。中屋研究室では地下水の「年齢」や「動き」の測定に年代測定装置を使っています。大学教授になるまで17年間民間会社に勤め、会社から博士号を取るようお願いされて教授になったそうです。地下水の汚染に悩む各地に行き、水問題の解決につなげています。教授はとっても明るい方で、私たちの質問に対してわかりやすく説明してくれました。(ライター まゆ)

ブルーワールドと呼ばれる、安曇野の地下水

今回僕たちは、安曇野市役所の環境課の方々に出前講座を行っていただき、安曇野の地下水について教えてもらいました。

みなさんは安曇野の生活全般に使われている水が、地下水だということを知っていますか？では、なぜ地下水が生活全般に使われているのでしょうか？それは地下水位が高く利用しやすいからです。

じゃあ地下水はどうか？元を辿っていくと、北アルプスに降る雨や雪です。それが山から地下に浸み込みます。浸み込まれた水は石や砂の隙間を流れます。土がろ紙の働きをし、水の濁りや汚れを取り除いてくれます。この水が地下水です。



(ライター りんりん)

地下水の守り人会って来た

私達が取材したのは「信州大学学術研究院教授」中屋眞司先生です。先生は地下水の可視化について研究しています。

フィールドワークで採取した井戸水や湧水を「化学トレーサー」によって計測・解析をし、その移動状況や性質を可視化するそうです。地下水の可視化によりフッ素汚染のメカニズムなども明らかになってきたそうです。地下水の滞留時間は約20年〜30年。つまり、今、降っている雨が地下浸透してできた地下水が飲めるのは、20年〜30年先のことになるそうです。そう考えるとわくわくします。

先生の研究では日本各地に加え、海外では、中国・パングラデシユ・タンザニアまで及んでいます。その中で深刻化

しているタンザニアについて、詳しくお話を伺えました。タンザニアの生活用水の約80%が高濃度のフッ素が含まれています。フッ素は歯磨き粉など、意外と身近にあり飲用水中のフッ素濃度基準は1.5ppm以下とされています。しかし、キリマンジャロ山から西に60キロ程離れたタンザニアのアルーシャ市の平均濃度は4.5ppm！濃度基準の3倍です。ちなみにフッ素の濃度が1.5ppmを超えると歯が変色したり、骨の奇形が現れたりといった健康障害「フッ素症」と呼ばれる症状が現れることがあります。ではなぜ、タンザニアの地下水はフッ素汚染してしまったのか。



(ライター しーちゃん)

安曇野は嬉しいことに、地下水が豊富にあります。しかし日本国内外共に、とても地下水が希少であったり、生活水として使用されているのに危険などという地域もあります。安曇野でも、地下水の量は年々減少しています。そんな中、今の瞬間にも、地下水を守っている人がいます。豊富な資源が減少していることにもっと強い危機感を持ち、「地下水は大切なもの」という意識に切り替えていかなければいけないと思います。

(ライター りんりん)



サポートクリエイターに聞きたいことは?

Q. 好きな鳥は? (めい)

A. 仕事で描くことが多い、長野県シンボルの雷鳥に愛着があります! それと自分の誕生鳥のオウギバト! 色鮮やかな見た目と穏やかな雰囲気の魅力 (イラストレーター 成田)

Q. 好きな時計は? (ゆうさん)

A. TIMEXのキャンパーが好きです。元々はアメリカ軍で使用されていた時計で、素早く時間が読めるという当たり前かつ最低限の機能を備えています (デザイナー 廣瀬)

Q. 辛いことを乗り越えるためには? (あやめ・レーちゃん)

A. 辛さをすべて正面から受け止める必要はないかな。友達に愚痴ってもいい、逃げてもいい、時間をかけてもいい、ちょっと不真面目でもいい。自分にはいろんな選択があることを覚えておくと、気持ちがラクかなって思います (ライター 筒木)

Q. カメラマンになるには? (すずな・まゆ)

A. 今から写真を撮り続けること。これを止めるとカメラマンにはなれません! (カメラマン 河谷)

Q. 目標にしていることを教えてください! (めい)

A. 安曇野市民全員にAZUMOを知ってもらうこと! (エディター 楢畑)

中学生全員から、読者に一言!

- ✓ 一番に伝えたいのは、安曇野のよさ。安曇野を知らない人はもちろん、知ってる人にも更なる魅力を発見してもらえたら嬉しい。また、冊子を作ってきた私たちの努力も伝わってほしいなと思います。(あやめ)
- ✓ この冊子作りでいろいろな安曇野を知りました。読んでくれる人にも安曇野の良いところを知ってほしいです!(レーちゃん)
- ✓ 地元の人に安曇野のまだ見ぬ素敵などを伝えたいです。自分たちの住んでいるところはもっともっと魅力があるんだよと感じて欲しいです。(めい)
- ✓ 安曇野には、みんなが気づけていないこんな素敵なものや場所が沢山あるんだよ!! (まゆ)
- ✓ 安曇野の意外と知られていない魅力や、安曇野と水の関係を伝えたい。(ゆうさん)
- ✓ 安曇野に住んでいる人、住んでいない人にも、新しく知ることができる冊子になっているので読んでほしいな!(すずな)
- ✓ こんなにも素晴らしい場所だぞ!と伝えたい!(りっくん)



読んでくれてありがとうございます!

楽しかった! (りっくん)

え、すべてをただで! 学校も違う、名前も知らない人達と、どう接すればいいか不安だったけど、取材を通して話せるようになって、みんなと仲良くなれたこと!(すずな)

冊子がどんどんできていくところがワクワクして、完成図が頭の中できて楽しかったです!(レーちゃん)

みんなでいろんなところに行き学び、まるで修学旅行みたいで楽しかった!(まゆ)

文章作りでたくさん工夫をできたこと。語彙が増えたこと。(りっくん)

素材を作っていく中で、今まで知らなかった安曇野のことが分かるような気がして楽しく描けました!(すずな)

安曇野の推しは?

虫 動物 空 山 りんご 自然 鳥 田んぼ

みずん 信州サーモン



ドヤ!

風景は見るだけでストレス解消!

取材してどうだった?

安曇野にはまだまだ知られていない魅力があるのだということ、そうしたのを見つけ、発信していくことが必要だなと思いました(めい)

取材前に考えた質問の数では、実際まったく足りなかった(りっくん)

よく知っているものについて取材に行っても、自分の知らなかったことが必ずある(あやめ)

どこここ!? この生き物、愛嬌がある そういっていいですか?

取材先の人の言葉を一言ももらさないように聞いて、書きとるのは大変だった!(ゆうさん・めい・りっくん)

プログラマー ゲームクリエイター (りっくん)	学校へ行ってみよう! (すずな)	動物を調べたい! (すずな)
豪邸で沢山 ご飯食べたい! (まゆ)	やってみよう! 取材は? (りっくん)	お米やりんごなどの 食べ物 (めい)
お父さんの仕事 (りっくん)	南極と北極の生物の 特徴・バイオリギング (ゆうさん)	ポカロイラストレーター (りんりん)

これはいいですね



敬語や謙譲語の使い方(ゆうさん)

ライター担当ではないのに、文章が上手な人がいてすごいと思った(りっくん)

同じ年齢・同じ安曇野で生活していても、それぞれ違う考え方や見方があると気づかされました(めい)

サポートクリエイターに学んだ

わからなかったり、何を描こうかなーと思ったとき、「こんな感じの描いてみたら?」「こんな感じの写真を撮ってみて。」とアドバイスをもらって、やってみようという気持ちになりました!(すずな)

印象に残って体験は?

雨の中をスポーツバイクで走りました!



自転車のみんと走ったとき、雨が降っても頑張って走り続けた!(まゆ・りっくん) カメラを出すのも大変でした(レーちゃん)

すくい網で水中生物を捕まえた!



水生生物が池の中を縦横無尽に泳いでいた(ゆうさん) 水中にいる虫をつかまえた(りんりん)

養殖の新鮮な魚料理を食べた!



丸山鯉屋でイワナの塩焼き、信州サーモンの刺身、味噌汁、漬物を食べ、素材本来の味が引き出されてとても美味しく感動した(ゆうさん)

地熱で蒸した野菜や卵を食べた!



地熱蒸しの食べ物を食べたこと(りんりん) 時間があっという間に過ぎてしまった(ゆうさん)

今いいかそ!



おいしい?



地下水は内容が難しかったので、わかりやすく文章をまとめるのは大変でした。皆さん文章は読みやすいですか?(レーちゃん)

背景や飾り文字のイラストを、どうすればいいかすごく悩んだ(りんりん)

写真は天気を気にしなきゃいけないので大変でした(すずな)

編集後記

制作の裏話

中学生クリエイターが体験したわたしたちが作った記事はいいかがでしたか? 中学生の作業がひと通り終わったタイミングで、中学生たちの本音を聞き出すべくアンケートを実施! 変更無し生の声をお届けします。

中学生クリエイター



文章・写真・イラスト制作、どうだった?

わかりやすく伝えるためにはどうしたらいいか、どんな色を使ったらいいか、どんな構図がわかりやすいか...など苦戦しました(あやめ)

文章を書くために音声を何回もリピートして半日かかった!(まゆ)

手ぬぐいをかけている人のイラストを書いたつもりが、エビを頭にのせた感じになってしまいました。伝わるイラストを書くのって難しい(めい)

地下水は内容が難しかったので、わかりやすく文章をまとめるのは大変でした。皆さん文章は読みやすいですか?(レーちゃん)

背景や飾り文字のイラストを、どうすればいいかすごく悩んだ(りんりん)

写真は天気を気にしなきゃいけないので大変でした(すずな)

こう書くのはどうですか?



紙面に載っているイラストやロゴの描き方、カメラの撮り方など見せる技術を教えてもらうことによって、将来の仕事のことを考えることができ、未来の自分が少し見えた気がしました(めい)

採ったぞー!



こどもたちの創造性を育てて 地域をつなげる活動です！

「COLOMAGA Project(コロマガプロジェクト)」は、こどもたちが自分の住む「まち」を取材し、プロのクリエイターと一緒に「まち」のローカルマガジン(地域情報誌)を作るプロジェクトです。現在、東京都、静岡県、山梨県、長野県、広島県の1都4県7エリアの地域が参画しており、地域を超えた交流も行っています。自分たちが住んでいる「まち」を知るために、まず自分が興味のある人や場へ出向いて、知りたいことを取材します。つぎに、その情報を自分らしく発信するために、プロのクリエイターからノウハウを教わりながら、写真を撮ったり、イラストを描いたり、文章を書いたりしてカタチにしていきます。最後に、みんなの集めた「まち」の情報をひとつの冊子にまとめることで、「COLOMAGA」が完成します。こどもたちが世代を超えて出会う人々と交わすコミュニケーションは、かけがえのない思い出や体験となります。「まち」の魅力を知れば知るほど、自分の「まち」が好きになり、自分の居場所になっていく。「まち」のために何ができるだろうと考える人が一人でも多く育って欲しい。「COLOMAGA Project」はそんな想いで活動しています。



各地域で制作した冊子をご紹介します



ほか準備中の広島県・東京都など、参加地域が続々と増えています！



安曇野が好きなみんなで、 AZUMOを創っていきませんか？

年に1回の発行を目指す、本冊子『AZUMO(アズモ)』を制作する『COLOMAGA Project 安曇野制作実行委員会』は、安曇野にゆかりのあるプロクリエイターで運営している任意団体です。安曇野の未来を創る安曇野のこどもたちが、主体的に、安曇野を調べ、学び、創造した冊子を誰かに見せて伝えたい！という気持ちを高めることで、地元への愛着、未来の安曇野を育むことに繋がります。安曇野を愛する人たちがみんなで作り上げていけたら嬉しいと思います。

活動の詳細はコチラ



お問い合わせ先

colomaga.azumino@gmail.com

冊子づくりに欠かせない3つの関わり方

- 1 こどもが参加したい!**
 安曇野市在住のお子さんで、コロマガ講座に出席可能な方は参加できます。参加者募集は、毎年春から夏を予定しています。ご興味のある方は随時お問い合わせください。
- 2 個人・企業・団体として応援したい!**
 本活動は、協賛いただいた方からのご支援等で成り立っております。隣ページにロゴを入れさせていただきます。こどもたちにも色んな仕事を知り、興味をもってもらえると思います。
- 3 コロマガ安曇野の取材がしたい!**
 本活動を広げるためには、冊子の発行だけでなく活動自体の認知度を上げていくことが不可欠と考えています。1年中活動しておりますので、メディア関係者様で取材をご希望の方は気軽にお問い合わせください。

サポートクリエイター

本冊子の制作運営を行う『COLOMAGA Project 安曇野制作実行委員会』のスタッフ紹介



Editor
 梶畑 彩香 Ayaka NARAHATA
 穂高柏原在住。女子美術大学デザイン学部卒業後、東京のファッション系の出版社や編集プロダクションを経て、安曇野に移住し編集者として独立。冊子やWEBサイト等のデザイン制作をしています。コロマガ安曇野の発起人。



Designer
 廣瀬 陶 Yo HIROSE
 穂高出身。桑沢デザイン研究所卒業後、東京のアパレル会社の販促デザイナーを経て地元へUターン。松本を拠点にフリーランスのグラフィックデザイナーとしてグラフィックや動画制作をしています。



Writer
 筒木 愛美 Manami TSUTSUKI
 穂高出身。大学卒業後、東京の制作会社で大手企業のWebマーケティング支援に従事。その後、故郷への想いが高まりUターン移住。現在はフリーランスで、東京や安曇野で企業の「伝える」をサポートする、広報支援の仕事をしています。



Illustrator
 成田 夏紀 Natsuki NARITA
 松本在住。2015年に東京より移住。「ローカル」や「繋がり」をテーマに、松本や安曇野で手書きの文字とイラストを使ったデザインの作成、イベントの企画運営など幅広く活動中です。松本にある山と自転車のお店でも働いています！



Photographer
 河谷 俊輔 Shunsuke KAWATANI
 豊科高家在住。大学在学時より海外を旅しながら写真を撮り始める。卒業後、都内の某写真事務所にて雑誌や広告の撮影に従事。独立後安曇野へ移住。長野に住む人々の暮らしや山、自然の美しさを撮影しています。



Designer
 平塚 隆司 Takashi HIRATSUKA
 安曇野穂高有明在住。都内のデザイン会社に勤務後、安曇野市に移住し株式会社AZGRAPHを設立。グラフィック、WEB、ブランディングのディレクションから制作まで行う。趣味は散歩とバードウォッチング。



Designer
 篠 鉄平 Teppei SHINO
 安曇野版コロマガアドバイザー。山梨県北杜市版コロマガ「ほくとこ」コーディネーター。本業は八ヶ岳山麓エリアを中心に地域の魅力を発信するグラフィックデザイナー。2児の父。趣味は家庭菜園と新割り。山梨県北杜市在住。

デザイン制作も承っております。
 制作の幅は多岐に渡りますので、どんなことでもお気軽にご相談ください。
 MAIL: colomaga.azumino@gmail.com (担当: 梶畑)

サポートパートナー

本冊子へ協賛・掲載等のご協力をいただいた個人・企業・団体のみさま(順不同)



and more...